(2007.8.10)　発行国絵図研究会
〒310-8512 水戸市文京２丁目 1-1 茨城大学教育学部小野寺研究室
℡＆fax029－228－829

国絵図ニュース　20号

山口大会のお知らせ

例年にない猛暑が続いておりますが、皆様お元気でお過ごしのことと拝察申し上げます。編集子の都合で大幅にお知らせが遅れましたことをお詫び申しあげます。

さて、河村克典先生(山口県文書館)のお世話で、山口での研究会を下記の通り行います。今回は、幕府撰国絵図の閲覧ではなく、毛利藩作成の国図・郡図・宰判・村絵図・城下町絵図などを系統的にみて、毛利藩の絵図作成史とその特徴をさぐる企画です。また、河村克典先生と山田稔先生に研究発表をお願いしております。またとないチャンスです。ふるってご参加下さい。

誠に申し訳ありませんが、申し込みの期限が迫っておりますので、お早目に同封のはがきでご返事を宜しくお願い申しあげます。

記

■ **開催日**　２００７年９月２日(日)～３日(月)

■ **集合場所**　９月２日　14：00　山口県文書館においで下さい。

■日程

９月２日　山口県文書館研修室
14 時 00 分～16 時 30 分

研究発表会
- ● 河村克典　「山口県文書館所蔵の地図について」
- ● 山田稔　「防長一村限明細絵図について」

懇親会　プラザホテル寿　懇親会のみの参加も可能です。費用 6000 円
宿泊　プラザホテル寿　〒753-0056 山口市湯田温泉 3-3-13

９月３日　山口県文書館閲覧室
10 時 00 分～15 時 00 分まで

絵図熟覧会

■ 費用
一般 13000 円(1 人部屋)　※宿泊費・懇親会費などすべてを含みます。

同封のはがきに必要事項をご記入の上、８月 25 日必着でお知らせ下さい。

「菊池川全図」と測量術

礒永　和貴

大河を治めるには、測量した正確な絵図を描き、その絵図に基づく計画的な土木事業に基づく管理が必要であった。ここでとりあげる菊池川全図は 30 メートルという河川絵図としては日本最大級の長さを持ち、2000 分の 1 大縮尺で描かれている。以下では、熊本県立図書館蔵と菊池市蔵の菊池川全図について検討する。

菊池川全図には多くの立会人の名が見られるが、菊池市所蔵の菊池川全図には玉名郡堂目野村(旧鹿央町目野、現山鹿市)の庄屋改助の名がみられる。その肩書きには、「中富絵図方」とある。改助は、永青文庫の「町在」によると文政 9(1826)年に中富手永の測量方となり、弘化 3 (1846)年に菊池川全図の調方に任命されている。菊池川全図の完成年は、安政 2(1855)年であるから、9 年余の歳月をかけた測量図であることがわかる。

菊池川全図には多数の刎が描かれている。刎には川に飛び出るように石垣でつくる石刎と木杭を打ちつけて作る杭刎がある。この刎によって川の流れを緩めたり、水量を調整したり、流れを変えたりできる。刎を計画的に配置することによって水害を防いだり、川船の航路を確保したりした。またね刎によって土砂を制御して附洲、干出、中洲などを作って耕地(流作場)を得たのである。菊池川全図は、菊池川を土木技術によって計画的に管理することを目的に作成されたものであるといえる。

さて、菊池川全図の測量術はいかなるものであったのであろうか。菊池川全図の方位記号は、定規を使って方位の線を入れ、コンパスで同じ大きさの円を描いて方位の文字を入れている。現地で磁石の方位と絵図の方位をあわせると、さまざまな構築物が正確に描かれていることがわかる。

菊池川全図は 2000 分の 1 縮尺で描かれた精密な絵図である。しかし、25000 分の 1 地形図と菊池川全図の流れが大きくずれている。これは、右へ左へと蛇行する菊池川を 88 センチ×30 メートルの長い紙に描くために、河川の蛇行を巾 88 センチ以内に描いているからである。これでは、菊池川の蛇行は表現できないので、蛇行する地点に現地の正しい方位を入れている。絵図に描かれた蛇行地点で、方位をあわせるとさまざまな対象物が正確に描かれていることがわかる。現地を把握するためには、菊池川全図と磁石を持参し、方位記号を基準にしなければ正確な様子がわからないことを意味しているのである。

このような測量図である菊池川全図を描いた中富絵図方の改助は、どのようにして正確な測量術を習得したのであろうか。そこで、熊本の測

量家たちの動向をみてみることにしたい。最も端緒となるのは、文化7(1810)年と同9年の2度にわたり来熊した伊能忠敬であろう。忠敬の肥後での案内には肥後藩天文測量方の池部長十郎があたった。忠敬は、八代において長十郎の弟子たちに測量術を伝授したり、長十郎家を訪ねたり、長十郎の弟子の1人である島原藩士の中村吉之助と会ったりと盛んに交流をもっている。

これを契機にして長十郎は、その子啓太と共に肥後藩の全域の測量絵図の作成にいそしんだ。その後啓太は、測量術を生かして西洋砲術の道を進み、幕府砲術師範である高島秋帆の弟子となった。高島秋帆が鳥居耀三によって獄につながれると連座したが、冤罪がとけて釈放され、その後熊本に帰った。安政2(1855)年には、長崎に開設された幕府の海軍伝習所の第1回伝修生となり、熊本藩が始めて購入した蒸気船万里丸の船長に就任する。いわば、啓太は測量を西洋砲術と航海術に使ったわけである。

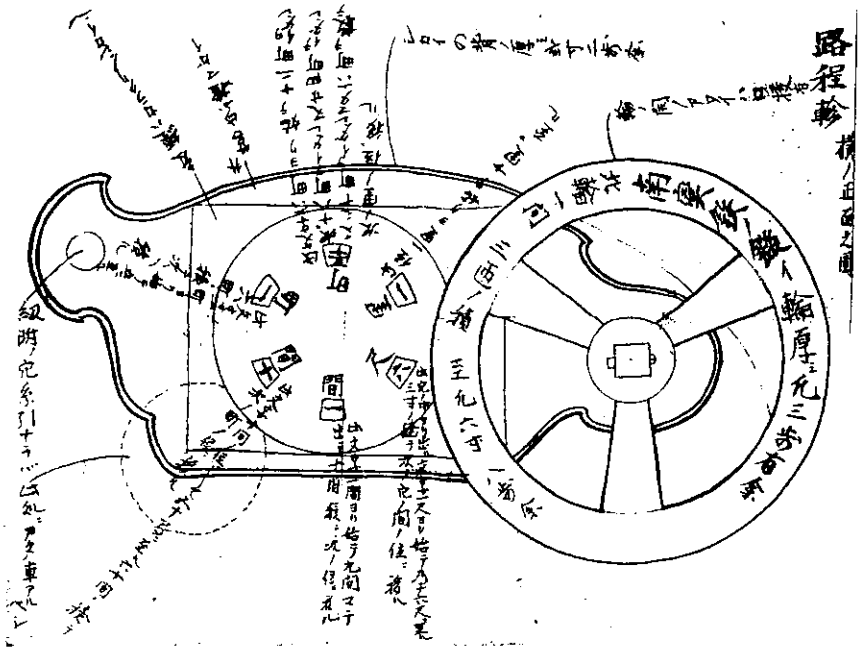
長十郎の後の測量家として有名な人物に改助の師匠の原甚吉がいる。甚吉は、改助の住む堂目野村のすぐ隣りの岩原(いわばる)村に住んでいた。甚吉は、文化3年に池部長十郎の弟子である測量家牛島宇平太(盛庸)に入門。文化5年に免許皆伝し、文化7年に藩校の時習館にも出席して学問を深めた。しかし、これに飽き足らず、文化10年に藩に願い出て備中の谷東平、窪田浅五郎のもとに修業に出かけた。谷に関する資料は今のところ発見できていないが、窪田の史料は岡山県立博物館に所蔵されている。このなかに原甚吉は、八代平野で七〇〇町新地を築いた鹿子木量平の息子である謙之助が浅五郎に依頼した測量器具を購入に多田隈鎮次(さねつぐ)とともに岡山を訪れた史料がある。これによると、甚吉は、尺、手磁石、コンパス、磁石張りなど多くの測量器具を購入し、その使い方を修得している様子が克明に記録されている。その中の一つには、車輪が回転することによって距離が測れる仕組みになっている路程車がある。

備中は、熊本と同じく干拓や水路開発による土地開発の盛んな地域で、この窪田浅五郎の測量術はまさに土木のための測量術で、特に高低差を測ることに極めてたけていた。この浅五郎に学んだ原は、測量器具を購入し、ただちに熊本へ帰着してすぐに藩から玉名郡の測量御用を命じられている。そうして文化10～天保元年にかけて、28点の測量図を作成した。文化11年の測量図の題名は、「内田手永川部田村在養水井手筋積方ニ付、江田村より下高低測量絵図」、文政元年三月「八代郡大新地水理肯定測量絵図」、文政6年「荒尾手永長洲町船口新川堀方積ニ付、高低測量絵図」などとなっており、水路や河川を工事するにあたっての高低差を測量したことがわかる。まさしく、土木事業をするにあたり測量した、いわば設計図であったとみてとれるのである。

また、弟子の養成にも熱心で、文政元年に30人の門人がいたことが知

られる。さらに翌文政 2 年には、農民身分にもかかわらず、藩校の時習館の居寮生にもなった。さらに文政八年には、地推測量の担当となり、この事業は天保 10 年まで続き、原甚吉の弟子達が中富手永を担当し、その人数は中富手永の 40 人が延べ 9086 日を費やした調査でしている。この調査に参加した 40 人のうち手永会所詰役人が 12 名、庄屋が 18 名いたことがわかる。中富手永は 30 カ村、しかも庄屋は 2・3 村兼任する場合もあるから 7 割近くの庄屋が測量技術を持っていたのである。この中の 1 人に中富絵図方で菊池川全図を測量した改助がいたのである。このように伊能忠敬→池部長十郎・啓太→牛嶋宇平太→原甚吉<窪田浅五郎>→改助と測量技術が地方へ普及したことによって江戸末期の土木技術が支えられ、菊池川の管理が行われていたことがわかる。

菊池川全図は、我が国の近世末期の高い測量術とそれに支えられた土木技術による河川管理の実態を知ることができる極めて貴重な絵図であるといえるのである。



本年度の会費を徴収します。

国絵図研究会は、皆様の会費によって運営しております。ご協力ください。

一般２、０００円　　学生・院生１，０００円です

※ 口座番号は 00120－6－18473　加入者名国絵図研究会です。

❤常時原稿を募集いたします。メールで送っていただきますと大変助かります。●次回の国絵図研究会は長崎を考えています。閲覧したい機関を推薦してください。■左手を複雑骨折してはじめて長期入院しました。

ニュース編集担当・・礒永和貴　〒837－0912
福岡県大牟田市大字三池 895－1
℡＆fax0944－53－5859
mail アドレス isonaga@k3.dion.ne.jp